



令和 5 年 7 月 18 日

行政視察報告書

大石田町議会 岡崎英和

内容：大石田町議会行政視察

日時：令和 5 年 6 月 27 日(火)～29 日(木)

場所：北海道内(3 町)

白老町

平成九年に「開かれた議会・信頼される議会を目指して」議会改革に取り組み始め、基本条例の制定や議員定数の見直しと共にその核となったのが「通年議会制の導入」。

現行制度の定例会年 4 回開会に変わり、1 月から 12 月まで 1 回の開会にして、その中で 4 度定例議会を招集するという手法。

メリットデメリットは各種有るが、「閉会中」が無くなることで、議会としてのチェック機能が常時強化される点がポイントか。

当然ながら当町でも検討する余地の有りか。

栗山町

以前に議会基本条例に関して視察訪問、当町も条例設置に参考経緯有り。

今回はまず議員の学校を実施する事による「議員のなり手対策事業」。六日間延べ 6 時間に涉り、参加者に議会の本質などを説明。結果、参加者十数名の中から 3 名の議員選挙立候補と 3 名全員当選という結果。当町も今後の成り行き次第では、取り組む価値が有りか。

続いて反問権。感情的な反問が出そうになるも、今のところは踏み外れた質疑は無い模様。それでも、町長のみならず執行部、議員双方共に、その権利を意識した議会運営に効果有り。

長沼町

札幌駅や新千歳空港まで 30km 以内、いま話題のエスコンフィールド北海道まで 10km 程の立地条件。古くから第一次産業で栄え、長沼で採れない農産物は無い、と言われる程に多種多様な作物生産。平地が大部分を占め町内のほぼ全域が農業振興地

域。

今回のテーマは「ワーケーション」。都心に本部を置く企業の誘致も、ここ数年で数社の実績。コロナ禍により始まった「リモートワーク」と併せて、立地条件を活かした成功事例に見える。当町も東京駅からワンストップで大石田駅、上手く活用出来るように模索すべきか？

とは言え、コロナが終息した後、どの様な実態に進むのかも併せて思案すべきか。

総括

視察させて頂いた3町共に、環境こそ違えど、当町に当てはめられる参考事案が多く勉強になった内容。活用できる事から、具現的に取り組み始めなければと思う。